

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200678
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム高岡美幸
所在地	富山県高岡市美幸町1丁目4番47号
自己評価作成日	平成30年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者が日々穏やかに「笑顔」で安心してお過ごしいただけるように努めています。入居者にグループホームに入居しても自宅で暮らしているのと同じくらい楽しんでいただけるよう、毎月県外を問わず、頻りに色々な観光地などや買い物などに外出しています。入居者様のご家族様にも、当ホームの活動を知っていただく為、定期的に行事を企画し参加をして頂いています。普段から入居者様及びご家族様に当ホームを選んで良かったと思っただけよう考え接するよう努力しています。職員に関しても、当事業所を選んで良かったと思ってもらえるよう、事業所として有給休暇100%取得や働きやすい環境を整え、いきいきと働ける職場の環境づくりに取り組んでいます。また、日々質の良い介護の提供ができるように、認知症ケアの研修や接遇力を高める努力もしています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念に基づき、事業所理念「普通の方と同じように生活してもらいたい」という観点を共有し、利用者が閉じこもらないよう、外出支援に力を入れており、日常的に散歩したり、食材を買いにスーパーへ出かけたりしている。また、入居者から行きたい場所を聞き取り、普段行けない県内外への遠出を楽しみ、思い出をたくさん作っている。事業所研修も毎月実施され、法人共通のチェックシートを活用しながら、介護の基本を学び、職員自身が支援方法を振り返る機会を設け、個々の思いに寄り添ったケアに努めることで、入居者が居心地よく過ごすことができる支援の実践に繋がっている。法人本部が実施する、家族・職員からの満足度アンケートでは、環境面や接遇、待遇などについて、率直な意見・提案等をいただき、運営に反映・改善されやすい環境となっている。また、玄関やフロア、ベランダには手入れの行き届いた鉢花が並べられており、入居者や職員の楽しみとなり、事業所全体が温かく家庭的で明るく開放的な雰囲気になっている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成30年4月10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月11日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業としての運営理念、事業所の運営理念がある。企業の運営理念は毎日の朝礼で斉唱していて、職員全員が理解して実践につなげるよう努めている。	企業理念を基に、事業所の理念が掲げられ、朝礼や事業所内の研修の際に職員で確認し合い、常に意識できる環境である。新しく入職する職員には、入社時に理念の説明をし賛同してもらうことで、全職員が共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物に出掛け、地域の方と積極的に挨拶や会話を交わしている。また、毎年町内の夏祭りへ参加や秋祭りには御神輿が来てくれたりと、地域との交流を広めている。	地域の行事には必ず参加するようにしている。事業所で開催する行事には地域の方が参加して頂けるよう声をかけている。また、公民館の掃除等、地域の仕事にも参加していきたいという意向を自治会長に提示する等、地域の一員としてお付き合いできるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年11月に高岡市ふれあい福祉センターで「認知症ケア実践報告会」「タクティール&ふまねっと体験会」を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及びご家族、自治会長、民生委員、地域包括センター職員、グループホーム職員が参加し、活動報告や事故報告、参加者からの意見や要望を話し合い、サービス向上に反映させるよう努めている。	隔月開催の会議では、利用者も出席され、活動内容、介護状況を報告し、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。出席者から提案された内容について、対応策なども職員のミーティングで検討されている。会議の議事録は、玄関に閲覧用ファイルを設置し、いつでも閲覧できるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を高岡市高齢介護課の担当者に直接届けて内容を伝えたり、それ以外にも電話ではなく市役所に定期的に行き、担当者とい会い相談など行っている。	運営推進会議の議事録を提出する際には、行政の担当者と直接会って、手渡ししており、運営に関してや、取り組みの報告などを確認しながら、いつでも相談できる関係づくりができています。地域包括センターとは運営推進会議に出席して頂いて関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月毎に事業所内研修、法人としても北陸エリア合同の研修を定期的に行っている。また、2ヶ月毎にチェックシートを使いチェックし、ケアの内容の確認を行っている。防犯上、玄関の施錠は行っているが、お客様が外出したい時は、いつでも外に出られるようにしている。	3ヶ月に1回、チェックシートを使用し、身体拘束をしないケアを実践できているか確認をしている。チェックシートの項目に沿って支援方法を具体的に振り返り、それをもとに管理者やマネージャーが指導したり、支援方法を一緒に検討したりするなどして、身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。また、2ヶ月毎にチェックシートを使いチェックしている。また、虐待防止マニュアルを作成し、日々のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修にて権利擁護に関する制度について学んでいる。現在は必要性がある対象者はいないが、今後必要な方がいたら制度を説明し、支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて書面にて説明を行い、ご家族の方にも一緒に重要事項説明書と契約書に目を通して頂いている。また、不明な点がある場合は、理解して頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、意見箱を設置している。契約時には事業所及び法人の窓口を必ず説明している。また、ご家族が訪問された時に意見、要望を聞いている。法人として年に1回ご家族様アンケートを実施し、意見を反映させている。	家族の面会時には、積極的に声掛けしたり、家族会では意見や要望の把握に努めている。また、法人として年1回、アンケートを実施し対応や改善に向け、職員全員で共有しながら反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月全体会議の場で意見を聞く機会を設けたり、2～3ヶ月に1度は個別に面談を行い、要望などを聞いている。法人としては、年に1回職員アンケートを実施し、意見を反映させている。	法人として1年に1回、職員満足度アンケートを実施し、率直な意見をよみとり、運営に反映させている。また、2～3ヶ月に1回、個人面談を行い職員の意見や要望等を聞き、職員同士の懇親会を開催したり、普段の会話の中からも職員の意見や提案を聞き取り、働きやすい環境となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、キャリアアップの基準を明確にしている。資格取得支援制度など、職員が向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を毎月行っている。また、定期的にエリア研修・地区研修も行っている。外部研修など機会があれば参加をしている。資格取得支援制度もあり、資格取得を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他県エリアとの交流は行っている。他法人とは、研修会などで参加した時に意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、安心して暮らせるように、入居される前後にユニットリーダー及び介護支援専門員が本人の要望や困っていることを聞く時間を設けて信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯や、グループホームでの生活に対する不安や要望を時間をかけて伺い、ご家族が安心してサービスを利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族から要望や状況等の情報を集め、アセスメント表を作成し、ニーズの把握を行い必要なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれの得意分野(家事など)で力を発揮して頂いて、お互い協働しながら良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回ご家族を招いての行事開催などで、入居者様とホームで過ごす時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が住んでいた地域に職員と一緒に出掛けたり、面会に来られたご家族、知人などには継続的に来て頂けるようゆっくり過ごせる支援をしている。	家族や友人・知人の面会時には、お茶を出したり、積極的にコミュニケーションを図り、来所しやすい雰囲気作りに努めている。入居者が住んでいた地域や墓参りには一緒に出かけ、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、共通の話題や気の合う人同士で過ごせる時間を作るように、職員が調整役となり、入居者様同士が良好な関係になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、ご家族様から連絡があれば相談に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と日々の会話を通して情報収集を行い、希望、意向を把握するように努めている。また、ご家族からも話を伺い、入居者様が何を望んでいるのかを把握し、ケアに反映させるよう努めている。	入居前の今までの暮らしや生活習慣、本人の希望などを記録している。入所者とのなげない日常的な会話の中から、本人の意向をくみ取るように努めている。それらは、カンファレンスの際に職員全員で共有している。	日々の会話や表情から意向をくみ取り、支援方法も検討されているが、日々の関わりの中から得た本人の思いや意向が、職員で共有しながら手順よくアセスメントされ、ケアプランに反映されるよう記録の整備が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後なども、ご本人やご家族と会話を通して馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、日々の行動や表情等から心身の状態を感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、介護計画に反映できるようにしている。また、カンファレンス、モニタリングで全職員の意見も組み込み、主治医や看護師からも意見を聞き作成している。	本人の状態確認をし、全職員でモニタリングを行い、それをもとにカンファレンスを実施している。主治医や看護師からの意見も反映し、支援方法を検討したうえで、利用者個々の状態に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報やケース記録に個別に日々記録を記入している。記録は申し送り時や会議等で情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院の送迎、買い物の代行等必要な支援には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度、地域の理美容師による訪問理美容サービスや、提携先協力医の訪問診療を利用されている。また、毎月ボランティアの方が来て下さり楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医に受診される時には、普段の様子などを看護師が記載し渡したり、職員が通院介助したりしている。受診は協力医以外は基本的にはご家族がされているが、無理な場合には職員が通院介助している。	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診してもらっている。協力医がかかりつけ医の場合は、月に2回往診があり、状態を報告している。また、それ以外のかかりつけ医に受診する場合は、基本的には家族対応としているが、家族が行けない場合は職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常にお客様の健康管理や状態の変化に応じた支援が行えるようにしている。看護師と介護職員は、申し送り等で情報を交換、共有し、体調変化の早期発見、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報共有を行っている。入院中も定期的に面会に行き、病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について、書面にて説明している。現時点では、重度化した方がいないのでご家族等と具体的な話はしていない。	事業所として、看取りはしていく方針であり、契約時にもそのように伝えている。年1回、看取りについての研修を実施しており、実際に看取りを行う時点で再度研修を行うよう計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作成し説明している。開設時に職員が普通救命講習を受講しており、初期対応の実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、災害対策のマニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。水害等の災害時の研修や避難訓練も行っている。	地域の消防署の協力のもと、年2回の避難訓練を実施している。避難場所は中学校となっているが、地盤が高いということで、水害の際には、事業所の2階へ避難するよう対策がとられている。運営推進会議においても、協力体制を依頼している。	災害対策は運営推進会議で案内してあるが、なかなか浸透していない。地域の方に働きかけ避難訓練に参加してもらえるよう、今後も、地域との協力体制づくりの検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内研修で、職員の意識向上を図っている。言葉遣いや声掛けなど接遇の研修を行い指導している。	法人内でマニュアルがきちんと整備されている。チェックシートの項目に沿って、職員自身が、対応や言葉かけの振り返りをしながら、尊厳の確保に努めるよう、接遇の研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、入居者様の思い、希望を聞き、その方の希望が出来る限り叶うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様から外出や買い物など希望があれば一緒に外出したりしている。日中のホーム内では、ご本人の希望やペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える衣類等はご本人に尋ね選んで頂いている。お化粧品などもご本人の意思でして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者様と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。また、定期的にお寿司などをテイクアウトしたり、普段の食事をお弁当形式にしたりしている。食事の準備や下膳や食器洗いなど、職員と一緒にすることもある。	献立は、法人の栄養士が考えているが、季節の食材を使用するなどしてアレンジしている。また、食材は週3回入居者と職員がスーパーへ、一緒に買いに出かけたり、下膳や食器洗い等も共にしている。また、誕生日や行事の際には特別メニューとする等、食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎回記録し、栄養バランスや水分量等を観察している。また、個々の好き嫌いを把握し、提供する食事量や形態を変更している。毎月体重測定を行い、個々への対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けをし、介助が必要な方は、職員が行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握している。また、その方の行動で推測し誘導を行ったり、時間毎の誘導、声掛けを行っている。	排泄間隔を把握し、その人に合った時間ごとの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。排泄チェックシートを活用しており、自立の方が多いが失敗された時は自尊心を傷つけないよう、職員で配慮しながら、入居者の状態に合った方法で排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で牛乳やヨーグルト、食物繊維が豊富な食材を使うことにより、極力薬に頼らず自然な形での排便を促しているが、お客様によっては主治医の指示により薬による方法もとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入りたいタイミングで入浴できるようにしている。入浴拒否の方や身体状態の悪い時等は、清拭や足浴を行うように努めている。	基本的には午前中を入浴時間としているが、本人の体調等に合わせて、いつでも入浴できるようにしている。本人希望のシャンプーやボディソープを使用したり、入浴剤を使用するなど、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方は、日中の活動を促しているが、そうでない方には、個々の判断で日中も休んで頂いている。室温の管理や、飲み物の提供なども行い、安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は、連絡ノートに説明を記入している。薬の情報を個人ファイルに綴じ、職員全員が把握できるようになっている。また、誤薬の無いように看護師、職員でチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野で力を発揮して頂けるよう、女性の方には家事や手芸など、男性の方にも掃除などをお願いし、感謝の意を伝えている。また、外食やドライブなどに出掛け、気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の馴染みの場所や希望に沿った地域に外出している。地域の祭りに出掛けたり、本人と相談して県内外の観光地に出掛けている。散歩などは希望があればすぐ外出出来るようにしている。	天気の良い日は馴染みの場所へ散歩、買い物など日常的に外出できるよう支援している。日常の関わりの中から、本人の行きたいところを聞き取り、県内外へ体調管理をしながら外出の機会を設け、利用者の楽しみとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様によっては少額のお金を持っておられる方もいるが、基本的にはご家族よりお小遣いとしてお金を預かり、金庫で管理している。買い物に出掛けた時など、ご本人が欲しいものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にいつでもかけられるようにしている。また、ご家族及び本人からの希望で携帯電話を所持されている方もいて、使用方法を忘れてしまった場合などは、職員が手助けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、室温やテレビの音量なども配慮している。また、行事の写真を貼ったり、飾り付けなどを入居者様と一緒に作り、皆が楽しめる空間作りに取り組んでいる。	フロアの共有空間は外の光が差し込み明るく、テーブルの上には季節の花が飾られ、心地良い空間となっている。隅とベランダには、これから咲くであろう小さな鉢植えがいくつも並び、きちんと手入れが行き届いている。廊下の壁には、思い思いの作品や、笑顔の旅行写真が貼ってあり、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士、くつろいで会話を楽しんだり、テレビを見ることもできるよう、ソファなどを置きどこでも会話ができるような環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、レクで制作した作品や、ご家族様から家で使っていた馴染みの家具や家族の写真などを持って来て頂き居心地が良く過ごせるように工夫している。	自宅で使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、本人が過ごしやすい居室となるように配置してある。また、本人の移動の動線も考えた家具の配置についても職員と家族と一緒に検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレなど、場所が分かりやすいように表示してある。また、居室内の家具などの配置は安全に生活ができるよう配慮している。		

2 目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム高岡美幸

作成日: 平成 30年 4月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	本人の思いや意向の把握はしているが一部記録が残されていない。	全員の方の思いや意向の記録を残す。	センター方式の様式を利用し記録として残す。	6 ヶ月
2	35	災害時における地域との協力体制が構築されていない。	事業所で行う避難訓練に地域の方にも参加をしていただく。	運営推進会議や地域交流の場で協力して頂けるよう働きかける。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。